

建設 維新

民生活を 商機に

神奈川県箱根町の民間有料道路「芦ノ湖スカイライン」。箱根峠から湖尻へと抜ける全長10・7kmの観光道路を運営するのは、NIPPPOの子会社、芦ノ湖スカイライン（東京都中央区、南場俊昭社長）だ。

藤田観光から事業を取得したのは07年9月。なぜ道路舗装会社のNIPPPOが、自ら有料道路事業に参入したのか。「舗装工事では業界トップでも、道路を運営するソフト面でのノウハウを持っていなかったのです、それを早く習得したい」という考えがあった。南場社長はこう話す。

⑤ 芦ノ湖スカイライン

も必要だ。舗装が傷んだり、ガードレールが壊れたりすればすぐに補修を行うなど、観光道路として常にベストな状態を維持していくことが求められる。交通事故が発生した時の対応などもある。

また、一定の速度で走行する道路を運営するノウハウは、自ら事業者となって積み重ねていくしかない。道路の経年変化を把握して効率的な維持管理に役立てることで、中長期的視点で取り組むアセットマネジメントに反映する必要がある。

また、一定の速度で走行する道路を運営するノウハウは、自ら事業者となって積み重ねていくしかない。道路の経年変化を把握して効率的な維持管理に役立てることで、中長期的視点で取り組むアセットマネジメントに反映する必要がある。

道路を運営するNIPPPOの戦略 事業主体となりノウハウ習得

上げていくしかない。道路の経年変化を把握して効率的な維持管理に役立てることで、中長期的視点で取り組むアセットマネジメントに反映する必要がある。

NIPPPOは、事業を譲り受けた時点で劣化が目立っていた路面の性状を調べ、計画を立てて舗装や付属施設、標識などを改修。砂利敷きだった駐車場を舗装するなど、快適に利用してもらええる環境も整備した。

また、一定の速度で走行する道路を運営するノウハウは、自ら事業者となって積み重ねていくしかない。道路の経年変化を把握して効率的な維持管理に役立てることで、中長期的視点で取り組むアセットマネジメントに反映する必要がある。

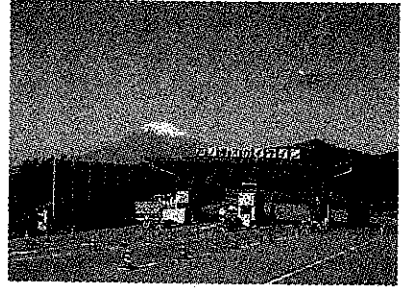
配属しているほか、緊急時には現地から車で30分ほどの所にある中部支店東富士出張所からすぐ駆け付けられる体制も敷くなど、快適な利用を陰で支えている。

◆ ◆

舗装工事の施工や資材の製造販売といった本業以外にも、都市開発事業、建築、エネルギー、環境事業などを展開するNIPPPO。PFI事業の専門部署も設け、公務員宿舎などの案件で実績を重ねている。芦ノ湖スカイラインの事業で、「道路管理者」としての顔も加わった。

今後は、レストハウスのバリアフリー化や、訪れた人が箱根の自然を満喫できるような植物園などの集客施設の整備も進める予定だ。

こうした取り組みを箱根町も評価しており、「地域のホテルや旅館とのコラボレーションで観光客を増やす方策を考えてほしい」と言われている。



交通インフラ整備に官民連携手法を取り入れる動きが本格化していけば、同社のような戦略が大きな意味を持つことになる可能性がある。マネジメントを担うことができる上に、工事や材料販売などさまざまな面で関与できるからだ。道路を核に、新しい市場をにらんだ同社の模索は続く。

◆ ◆

NIPPPOが取得した「芦ノ湖スカイライン」。日々の運営を積み重ね、ノウハウ習得を目指す。